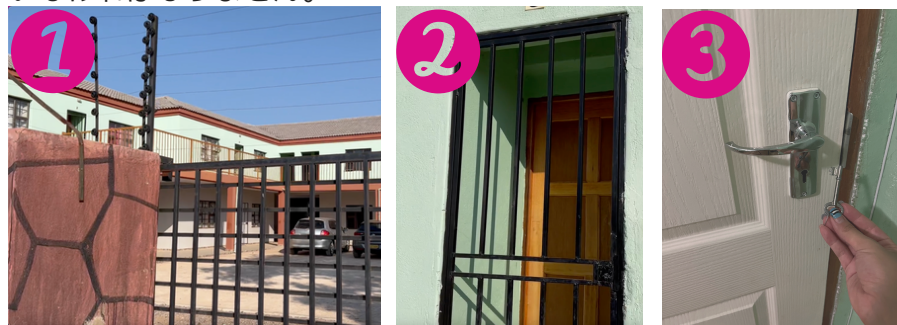


ボツワナだより



任地での生活が本格的にスタート

比較的治安の良いボツワナでも、スリや住居侵入といった軽犯罪は多いため、派遣前訓練で教わったことを実践しながら、常に警戒していなければなりません。



▲住居には、3段階の防衛線が必要：
第1の防衛線=門 第2の防衛線=玄関 第3の防衛線=寝室

互いに助け合う関係



幸い住民の皆さんとお互いに助け合える関係になってきたので更に安心です。私の家のドアが開かなくなった時に助けてくれたり、反対に近所の方の家に電気が来なくなった時に、私の家で携帯電話の充電をしてあげたりしました。ある大学生の女の子は私の最新のiPhoneのカメラでセルフィーを撮りたいと言って、髪型を変えた日などに「貸して！」と訪ねてきます。

軽犯罪や停電・断水、車の故障などが多いボツワナでは、ご近所付き合いは日本以上に重要なのかもしれません。

▲自宅からの景色：

任地はMogoditshane(モホディツアネ)郡という所で、首都Gaborone(ハボローネ)から車で30分ほどですが、首都とは違い、高いビルもショッピングモールもない、落ち着いた地域です。

この地域に住む方々は、首都より少しだけ人懐っこい印象です。子どもたちは見慣れないアジア人に緊張しながらも興味を持って手を振ってくれたり、近寄って来たりします。



▲近所の子もたちに折り紙を教えました。完成した作品に嬉しそう。

▶近所の方の飼い犬：

私にはとても懐いています。留守中は番犬の役目をしっかり果たしてくれています。犬の他に鶏や山羊や牛もたくさんいます。



Surprising Facts of Botswana

【No. 1】 同僚のお・も・て・な・し



住居は職場の同僚が見つけてくれましたが、それだけでなく家具の手配や設置までしてくれました！日本では住人本人がするのが当たり前ですが、私が手伝おうとすると、「ゲストをもてなすのが私たちの文化なの、あなたは働かなくてよいのよ」と言ってくれました。そんな同僚の皆さんのお気持ちに感謝をしながら、この家で生活したいと思います。

【No. 2】 早くも停電・断水を経験！

電気は比較的安定してはいるものの、月に数回停電があります。予め周知されているものもあれば、急なものもあります。停電すると地域一帯が真っ暗になり、お湯も出ず、料理もできなくなるので大変ですが、停電が明ける瞬間の街中の"ライトアップ"はとても綺麗です。

一方の水は、配管の故障で水が出なくなり、3日間溜め水で生活しました。

溜めた水をコンロで沸かしバケツに入れ、ボウルなどですくいながら体を洗います。取水制限は未だ経験していませんが、ボツワナの家庭や職場には、水不足に備えて常に水のストックが大量にあります。



【No. 3】 まるで別人!? コロコロ変わる髪型！



ボツワナでよく見るのが、家の庭で髪をブレイドしている光景です。

日本のエクステに近いと思いますが、元ある髪に人工毛を編み込んでいきます。ブレイドヘアは美容院でもできますが、手軽にショッピングモールなどで買うことができるので、友達同士で付ける人も居ます。ブレイドにもいろいろなデザインがあります。



ストレートヘアに憧れがあるようで、私の髪質はよく羨ましがられます。ブレイドの他にウィッグもよく着用します。ボツワナ人女性ははおしゃれで、頻繁に髪型を変える方も多いので、名前を覚えるのに苦労しました！



Botswana Independence Day

— 9月30日は独立記念日 —



私も旗を振って応援しました。左は小学生によるマスゲームで、"PULA=雨"という文字になっています。雨の少ないボツワナでは、雨や水がどれだけ貴重か分かります。10月末~少しずつ雨を見るようになってきましたが、地球温暖化の影響で雨の日が少なくなりつつあるそうです。雨が降った日は皆嬉しそうです。

— ボツワナカラーの青×白×黒 —



独立記念日が近づくと、スーパーにボツワナカラーのケーキが並びます。食べていないので味は保証できませんが…！実はこのボツワナカラーは普段からよく目にします。建物の壁や門、岩や木に青×白×黒がペイントされているものや、この3色の服や伝統衣装を着た人を見ると、自分の国や文化に誇りを持っている素敵な国民だなあと感じます。

ボツワナはかつてイギリスの保護領でしたが、1966年9月30日に独立を果たしました。皆さんは日本の建国記念日を覚えていますか？ボツワナ人は皆この日を覚えていて、盛大にお祝います。国立競技場では、馬や兵隊の行進、プロのマーチングバンド、マスゲーム、パラシュートによる空中劇、民族の伝統舞踊など、様々な催しを無料で見ることができます。

